

R2.2.5 令和元年度(2019年度)
熊本県国民健康保険運営協議会
資料2-3

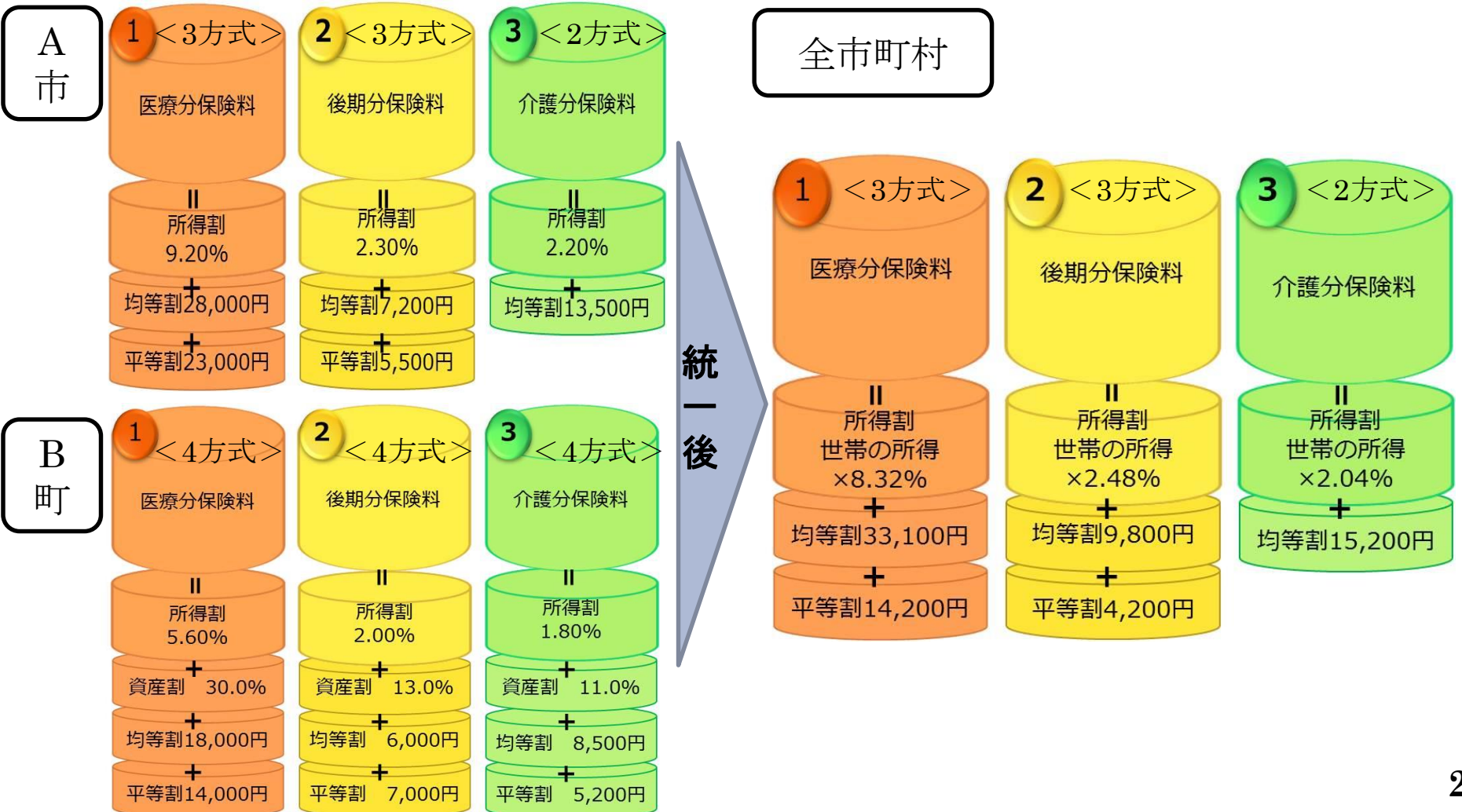
保険料水準の統一に向けて

1 保険料水準の統一について

- ・ 県では、将来的には、保険料負担の公平性の観点から、同じ所得で同じ世帯構成であれば、県内どの市町村でも同じ保険料負担となる保険料水準の統一を目指している。
- ・ しかし、現時点では市町村間の医療費水準の格差が約2倍と大きいため、明確な達成時期を示すことは難しい状況。
- ・ 医療費適正化の取組み等を進め、保険料水準の激変緩和措置への特例基金の活用終了後の令和6年度時点において、医療費や保険料の水準などの状況を踏まえ、統一の達成時期について改めて検討を行う。（平成29年6月議会答弁）

2 保険料水準の統一とは

○将来的には、算定方式等を統一した上で、「保険料率」を統一し、同じ所得で、同じ年齢層・世帯構成であれば、県内どの市町村でも同じ負担（率）となること。



3 市町村との意見交換

令和元年9月、財政調整・保険料(税)部会で、保険料水準の統一について、意見交換を実施した。

(市町村から出た意見)

- ・市町村にとって、財政運営が県単位化となったことに伴い、保険料水準も統一した方が住民に説明しやすくなる。

一方、被保険者にとっても、保険料税が分かりやすくなり、公平感が高まる。

- ・保険料税の負担増について、議会や住民に説明が難しい。

- ・統一に当たっては、医療費水準や収納率の格差縮小のための取組努力が必要。 など

※部会参加市町村の中で、将来の保険料水準の統一に明確に反対する意見は特に出なかった。

4 本県における今後の主な課題

大きく次の3点が考えられる。

- ① 市町村間の医療費水準に約2倍の開きがあること
- ② 市町村ごとに所得割、均等割などの保険料算定方式が異なること
- ③ 市町村ごとの保険料収納率に10%を超える差があること



①については、医療費の高い市町村の水準を県平均に近づけるよう、保健事業をはじめとした医療費適正化に向けた取組みを進める。

②については、現在、県内約半数の市町村で統一されたところであるが、引き続き市町村と協議を進める。

③については、目標収納率を達成した場合に交付金を措置するなど、国保運営方針に沿って、各市町村の収納率の向上を図っていく。